

文化遺産総合活用推進事業 実施報告

1 都道府県・市区町村名	静岡県静岡市	2 補助事業の種類	世界文化遺産活性化
3 実施計画の名称	羽衣ルネッサンス事業3・三保松原（構成資産）を後世に伝えていくための世界遺産活性化事業		
4 実施計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 29 年度		
5 過去の補助事業実績			
平成23年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			—
平成24年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業			—
平成25年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成26年度文化遺産を活かした地域活性化事業			千円
平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業	2,715		千円
平成28年度文化遺産を活かした地域活性化事業	2,789		千円
6 計画の実施状況（概要）			
※平成29年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。			
<p><平成27年度></p> <p>1. 人材育成事業</p> <p>①ヘリテージマネージャーの育成</p> <p>②三保松原を後世に伝えていくための環境整備の啓発・啓蒙事業</p> <p>2. 世界文化遺産普及啓発事業</p> <p>①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催</p> <p>3. 世界文化遺産調査研究事業</p> <p>①三保松原の歴史的価値を調査する事業</p> <p><平成28年度></p> <p>1. 人材育成事業</p> <p>9月から2月までの約半年間、公募した受講者を対象に、三保松原学文化講座全12回を実施した。</p> <p>①ヘリテージマネージャーの育成</p> <p>三保松原学文化講座のうち10回を、清水駅前の勤労者福祉センターにて、「信仰の対象と芸術の源泉」に関する専門家を講師として招聘し、前年度と内容が重ならない講座を実施した。27年度には実施しなかった、ヘリテージマネージャーについての詳しい説明、聴講者と講師の対話の場も設けた。</p> <p>②三保松原を後世に伝えていくための環境整備の啓発・啓蒙事業</p> <p>三保松原学文化講座のうち2回を、三保松原に隣接する東海大学海洋学部にて、「三保松原の保全活動」に関する専門家を講師として招聘し、講演会を実施した。</p> <p>2. 世界文化遺産普及啓発事業</p> <p>①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催</p> <p>静岡市清水文化会館小ホールにて、「芸術・美術」の視点から見た世界遺産三保松原をテーマに専門家を招へいし、シンポジウムを開催した。</p> <p>また、同時期に静岡市清水文化会館ギャラリーにて「三保松原ゆかりの絵画展」も開催した。</p> <p>3. 世界文化遺産調査研究事業</p> <p>調査・研究では、前年度の成果を踏まえつつ、内容が重ならない事柄を対象とした。新たな講師の参加、三保松原をフィールドとする調査・研究チームの参加もあった。</p> <p><平成29年度></p> <p>1. 人材育成事業</p> <p>9月から2月までの約半年間、公募した聴講者を対象に、三保松原学文化講座全6回を実施した。</p> <p>清水駅前の勤労者福祉センターを会場として、「信仰の対象と芸術の源泉」をテーマに専門家を講師として招聘し、前年度と切り口を変え講座を実施した。また、3年間の振り返りを行った。</p> <p>2. 世界文化遺産普及啓発事業</p> <p>①世界文化遺産普及のためのシンポジウムの開催</p> <p>静岡市役所清水庁舎ふれあいホールを会場として、「美術系」「信仰・文学系」「自然環境系」の3つの側面から三保松原について専門家がトークを行うシンポジウムを開催した。</p>			

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況

※平成29年度までの進捗状況について、実施計画で設定した指標に基づき、状況値と目標に対する達成率を記載してください。
(指標・目標値を複数設定している場合は、全て記載)。

別紙①②のとおり

8 効果等の検証・分析結果

※上記7の進捗に対する検証・分析結果を記載し、併せて定性的な効果を具体的に記載してください。

① (仮称)三保松原ビジターセンターへの来館者数(ビジターセンターは平成31年3月開館予定のため、「みほナビ」来館者数を指標とする。)

「みほナビ」来館者の数減少は、三保松原への来訪者そのものが減少していることによるものであり、来訪者は世界文化遺産の構成要素となった平成25年度をピークに、平成28年度には54%まで減少している。これは、登録直後の報道などにより、三保松原に興味を持った人々の来訪が一巡したことなどが原因と思われる。

羽衣ルネッサンス事業は、ヘリテージマネージャーの養成や市民の啓発など、来訪者への受け皿づくりの事業であるため、情報発信事業など、これからビジターセンター開館に向けて行う様々な事業と綿密に連携し、新たに三保松原の魅力を知って訪れたいと思う人々とともに、現地に感動し再び訪れたいと思う人々を増やしていくことが重要となる。

② 人材育成事業

29年度は、受講者の中からボランティアガイドや伝承芸能保存会へ加入する方があり、また、地域で新たなイベントが生まれるなど、人材育成事業が徐々に三保松原の価値を見直し、活用保全しようという全市的な動きにつながってきている。

受講生からは、ヘリテージマネージャーとしての期待に「うまく説明できないと来訪者に申し訳ない」という向上心の高い意見があり、受講生どうしで研修情報を共有したり、更には地元での保全や活用の情報を市へ提供するなど、文化遺産を守り活かすための自発的な行動も見られた。

③ 普及啓発事業

「美術系」「信仰・文学系」「自然環境系」の3つの側面から三保松原について専門家が語るシンポジウムを開催した。三保松原に関心がある市民だけでなく、美術や自然など、それぞれのテーマに関心のある人々も多く参加した。本事業の「三保松原について学んだことのない一般市民を対象に、三保松原には文化・科学双方で様々な研究テーマが豊富にあることをアピールする」という狙いが実現できたものとする。

年度後半に予定されていた三保松原の保全活用イベントや富士山に関する講演会などの日程が確定していなかったため、シンポジウム参加者をそれらの活動に促すことができなかった。個々の事業だけで考えるのではなく、連携させることを前提に各事業を組み立てていくことが重要となる。

なお、シンポジウムで実施したアンケートの結果では、「シンポジウムの存在をSNSで知った」と回答した参加者が14%あり、新聞やウェブサイトを上回っていた。今後行う三保松原の情報発信手段としてSNSは非常に効果的であると思われる。

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙

具体的な指標 1 :	(仮称) 三保松原ビジターセンターへの来館者数 (H28, 29, 30の数值は「みほナビ」来場者数)	関連事業:	①②		
目標値 1 :	平成 28 年度 90,000 人 ⇒ 平成 31 年度 200,000 人				
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
人	人	92,897 人	80,743 人	72,456 人	人
		3%	0%	0%	

様式 1 - 2 別紙②

7 定量的な目標に対する計画の進捗状況 別紙（関連事業）

事業①：	羽衣ルネッサンス事業3・三保松原（構成資産）を後世に伝えていくための世界遺産活性化事業	実施団体：	羽衣ルネッサンス協議会			
事業区分：	人材育成	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度			
事業概要：	三保松原について、松原保全、歴史、信仰、芸術など様々な側面の基本的な部分を体系的に理解し、それを説明したり芸術作品で表現することで後世に伝えることができる、ヘリテージマネージャーを育成する。					
具体的な指標：	後年度、三保松原学講座修了者全員が、民間の松原保全、観光ガイド、伝統芸能などの活動や市主催の研修に、積極的に参加する。					
目標値：	平成 28 年度 10 人		⇒		平成 33 年度 40 人	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
人	人	人	10 人	15 人	人	
			0%	17%		
事業②：	羽衣ルネッサンス事業3・三保松原（構成資産）を後世に伝えていくための世界遺産活性化事業	実施団体：	羽衣ルネッサンス協議会			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度			
事業概要：	三保松原について学んだことの無い一般市民を対象にシンポジウムを開催することで、三保松原には文化・科学双方で様々な研究テーマが豊富にあることをアピールし、第一線の研究者の生の声からその興味深さを感じてもらう。					
具体的な指標：	三保松原一斉清掃、植樹イベント、保全研修への参加団体数（目標値には団体数を掲げるが、個人参加者の増加も目標とする）					
目標値：	平成 28 年度 25 団体		⇒		平成 33 年度 40 団体	
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
団体	団体	団体	25 団体	38 団体	団体	
			0%	87%		